

事業概要票

事例NO. 50（平成22年度発表）

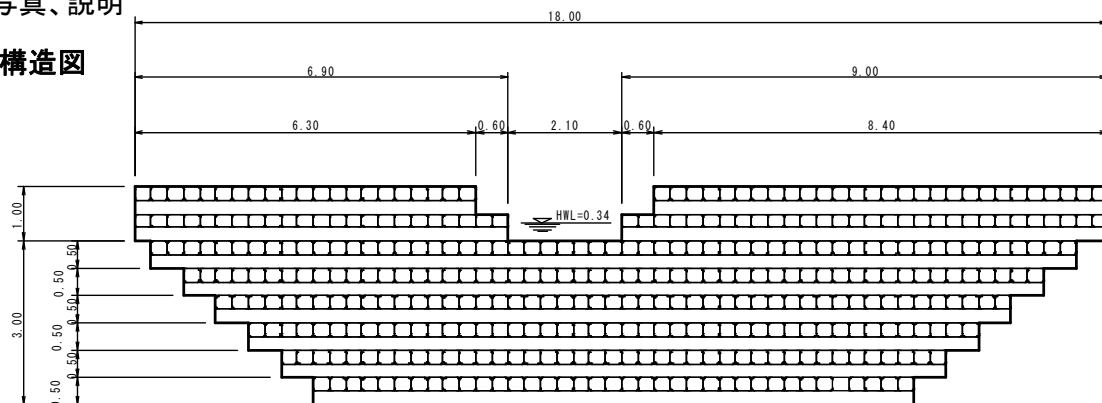
事例キーワード

県産木材使用
良好な景観

事業名		水源流域地域保全事業	県産木材使用 良好な景観
事業担当機関		雄勝地域振興局農林部森づくり推進課	
事業期間		H16～H20	
実施場所		雄勝郡羽後町下仙道字太倉 地内	
事業概要	全体事業費	374百万円	
	工事概要	谷止工2基 床固工6基 複層林造成（植栽）A＝8.83ha ほか	
	事業の目的	当該事業区域は、羽後町下仙道地区の農業用水などのための重要な水源である。しかし、計画溪流内には、大量の不安定土砂が堆積しており、洪水等により下流の水田や町道に流出するおそれがあった。ここから治山ダム工を設置し、不安定土砂の移動防止及び溪床勾配の緩和、山脚の固定を図ることで、保全対象の安全と水源かん養機能の向上に寄与することを目的としている。	
環境配慮の内容	1. 県産間伐材をふんだんに使用することにより、間伐により樹木の肥大成長を促し、森林の二酸化炭素の吸収量を増やすことで、地球温暖化防止に貢献している。 2. 木製床固工と共に溪畔林造成の基礎として、木柵工を実施し、木製床固工と一体となった景観となっている。		
施工後の状況	1. 木材のもつ独特の温もりが、周囲の景観と非常に良くマッチしている。 2. 溪畔林として植栽した樹種もしっかりと定着しており、今後の成長が期待される。		

図面、写真、説明

本堤 構造図



着手前



完成全景（9月完成→翌6月撮影）

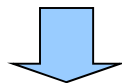
図面、写真、説明



木材使用量

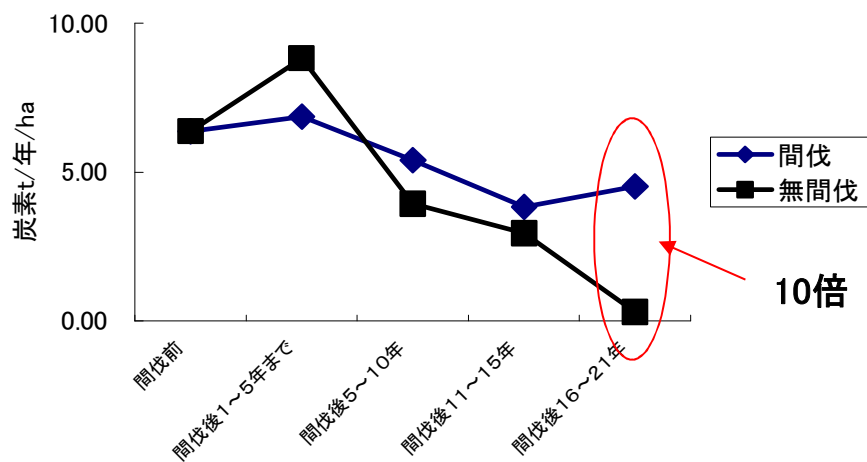
本堤	119.21 m3
垂直壁	5.95 m3
水叩き	5.00 m3
側壁	3.24 m3
合計	133.4 m3

（直径24cm樹高25mのスギ約123本に相当）



45年生～50年生スギ人工林1.5ha
を材積伐倒率20%で間伐した場合

48年生スギ人工林の間伐後の炭素吸収量の推移



面積あたりガソリン10,570リットル分の二酸化炭素を吸収